



コーディネーター

# CO新聞

H24.8.30号  
HP、掲示用



## ありがとうございました

学校間連携部会への多数の参加ありがとうございました。

今回は、学校間連携部会でおこなったインシデントプロセス法を紹介します。

### インシデントプロセス法とは…

インシデント「小さな出来事」を発端とした事例研究の方法です。

### その手順は…

- ①インシデントの提示    ②情報の収集    ③問題点の明確化    ④解決策の立案と理由の整理
- ⑤事例全体の振り返り    です

### その利点は…

- ・参加者が問題解決の当事者の立場で考えられる
- ・発生した問題を参加者が共有体験できるので、実践的な活動に結びつきやすい
- ・事例の資料が短くて済むので、発表者の負担が少ない
- ・事例についての質問が中心になるので、発表者の対応に批判的になりにくい



ケース会議等にぜひご活用ください！（望月）

## 視覚は学ぶもの②

今回は、本や教科書、プリントの文字を読む、黒板の文字を書き写すなどに求められる目の基本的な「機動力」についてと「ビジョントレーニング」の例をひとつ紹介します。

### 両眼の基本的な「機動力」とは…

- ① 見たいものをしっかり追いかける。（眼球の運動コントロール）
- ② バックグラウンドからはっきり際立たせる。（焦点合わせ機能）
- ③ ふたつの目を連動させ立体的に正しく距離を捉える。（両眼のチームワーク）

### 眼球の運動コントロールの「ビジョントレーニング」の例

☆ゆっくりとした目の動き

- ・子どもの目の前30センチに指標を掲げる
- ・左右50センチほどの幅で指標を右から左へ3往復程度ゆっくり動かし、追視させる
- ・上下、斜め、回転の動きを追視させる

\*この時、頭は動かさないように追視します。もし、顔をゆがめる、口を開ける、頭を動かす場合は、床に仰向けになって行います。

\*姿勢は背筋を伸ばして維持します。



姿勢は、大切！ 姿勢の話は、CO新聞バックナンバーに掲載されています。

みくまの支援学校ホームページ→支援部→CO新聞  
平成21年度「姿勢と学習のいい関係②」

授業のはじめに「目の準備運動」として、

「ビジョントレーニング」を取り入れてみてはどうでしょうか。追視することが難しい子どもには、自分の体のパーツを知ったり、動かし方を知ったりするビジョントレーニングもあります。

～参考文献「絶対 子どもが伸びる魔法のビジョントレーニング」日刊スポーツ出版社～ （有本）